

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生プログラム
大学名	東京大学
担当部署	国際部国際企画課連携推進チーム
コンタクト先	int-promote.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>東京大学理学系研究科・理学部の全専攻・学科と工学系研究科・工学部の社会基盤学専攻・社会基盤学科では、平成26年から「自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム（STEPS（Students and Researchers Exchange Program in Sciences））」を行っている。本プログラムでの交流を通じて、東京大学とロモノソフ記念モスクワ国立大学及びサンクトペテルブルク国立大学との間で、基礎科学分野、社会基盤学分野及び関連する分野における学術交流を促進し、将来の教育・研究分野における連携の基盤を築くとともに、本学の学生がプログラムを活用し、国際的な視野を広げることにより、将来、日本とロシアの交流に貢献するだけでなく、グローバルに活躍するリーダーとなるよう育成を行うことも目指している。</p>

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<p>本事業の運営を円滑に行うため、平成26年10月に本学にSTEPSオフィスを設置し、モスクワ大学およびサンクトペテルブルク大学双方にSTEPSプログラム担当者（コーディネーター）を選出してもらい、連絡体制を整えた。また、日本語に堪能なロシア人スタッフ及びロシア語に堪能な日本人スタッフを配置することにより、円滑な事務連絡が行えるようになった。</p> <p>理学系研究科と工学系研究科の教職員が、年に1-2回程度モスクワ大学及びサンクトペテルブルク大学を訪問し、交流事業の具体的な内容の打ち合わせやプログラムの進捗状況の確認等を行っている。</p>
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<p>短期派遣または受入学生は、各自渡航期間及び活動内容を受入先と調整の上決定している為、特に学年歴の妨げになることはなく、カリキュラムも個々のニーズに沿ったものになっている。長期派遣または受入学生の学位認定にはいたっていないが、単位認定及び単位互換に関しては、サンクトペテルブルク大学マネジメントスクールとの間で行っている。2016年に派遣された本学の学生は11.5単位を取得し、単位互換の手続きが実施された。2017年に受け入れた学生2名は13単位を取得し、うち10単位が互換された。また、2017年末及び2018年1月に帰国した本学の学生2名も単位を取得し、現在その認定作業が行われている。</p>
プログラムの実施における特筆すべき成果	<p>研究者交流においては、本プログラムが主催したシンポジウムへの参加を契機に、サンクトペテルブルク大学の准教授が本学での共同研究活動を実現させる為、自ら研究助成金を獲得し来日したケースや、本プログラムでモスクワ大学を訪れた後、翌年度よりモスクワ大学に所属して研究を行っている教員のケースがあげられる。</p> <p>また、モスクワ大学及びサンクトペテルブルク大学のウェブサイトにも本プログラムのページが作成され、現地でプログラムが周知された結果、応募者数の増加に役立っている。</p>
危機管理への対策	<p>本学学生の派遣前に複数回のガイダンスを開催し、渡航前の提出書類や、現地到着後の流れについて詳細を説明している。渡航後すぐに役立つ実践的なロシア語を身につけるため、ロシア語講師による1ヶ月間にわたる短期集中語学講座を開講している。また、受入側のSTEPS専任担当者が学生到着時の送迎と入寮時のサポートをしているため、入寮手続きがスムーズに行われている。サンクトペテルブルク大学には、“パディプログラム”という学生ボランティアシステムがあり、このシステムを通して本学派遣学生が渡航前からサンクトペテルブルク大学学生と直接コンタクトをとり、サンクトペテルブルク到着時や、その後の滞在中に支援を受けている。また、派遣された学生に事後に聞き取りを行い、次回以降に活用している。</p> <p>受入学生については、来日前の手続きや各種案内等の支援をロシア語及び英語で行っている。到着時に、日本での生活を円滑にスタートできるようにガイダンスを行っている。</p> <p>来日中の生活は、STEPSオフィス、受入教員の研究室でサポートを行い、日本での緊急事態の際や、災害時の対応については、連絡体制を整備している。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<p>本学では国際化教育強化の取組として、主に学部学生を対象とした短期派遣及び受入プログラムの拡充に向けた整備が進められており、本プログラムもその一つとして継続できるよう調整を図る予定である。</p>

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

<p>本事業に係る補助金の支給は平成30年度までとなっているが、平成31年度以降の予算確保についてご協力いただけると大変ありがたい。</p>
--